

## 令和6年度木曾地区酒米現地検討会を開催しました

○実施日 7月31日

○場 所 大桑村

○内 容

昨年度から重点課題として取り組んでいる「酒米の生産振興」の一環として、7月31日に木曾管内の酒造メーカー4蔵と生産者、町村、JA等の関係機関を参集して現地検討会を開催しました。

昨年度の検討会で酒造メーカー4蔵から出された意見の中から、「地元の木曾で生産した酒米「山恵錦」で醸造したい」という要望を受けて、生産者組織との意見交換や供給への協力体制について取り組んできました。

酒造メーカー4蔵の「山恵錦」利用への取り組み状況は以下のとおりです。

既に自社で栽培した「山恵錦」で醸造をしている1蔵、地元産「美山錦」で醸造していたが今年度から「山恵錦」に全面転換に取り組む1蔵、今年度初めて「山恵錦」で試験醸造を希望する2蔵です。

特に「美山錦」から「山恵錦」に全面的に切り替える取り組みにあたり、これまで生産を担っていたJA木曾特産振興部会（酒米部会）の協力体制については、関係者による検討を重ね理解を深めてきました。

原料供給のため、地元の生産者3者を新たに迎え、試験栽培を兼ねて委託しています。

現地検討では酒米の品種展示ほを観察していただき品種特性を確認し、室内検討で生産者に委託して試験栽培している「山恵錦」の生育経過を報告して、試験醸造への原料供給の方法について具体的に検討しました。

来春には、出来上がった地元産「山恵錦」で醸造した酒の試飲会を開催することとなり、参集した関係者一同、木曾の「山恵錦」の産地化に夢を膨らませました。



写真1：田んぼでの現地検討



写真2：室内に移動し意見交換